

国際医療交流の拠点づくり 「りんくうタウン・泉佐野市域」地域
活性化総合特区

[指定：平成23年12月、認定：平成24年3月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(4+3.5)/2=3.8$

3.8

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	国際医療交流の推進	62%	3
2	訪日外国人へのホスピタリティや地域魅力の向上による訪日促進	130%	5

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 1 + 4 \times 0 + 3 \times 1 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 2 = 4$

4.0

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

※2) 数値目標○は複数の数値目標があり、※1のとおり各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均しているため、進捗度と評点が一致しない。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

3.5

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 $(3+3.3+3.5)/3=3.3$

3.3

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

3.0

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.3

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.5

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.5

- ・依然として「医療」と「観光」の両面に渡るような取組が希薄な印象を受ける。「医療」と「観光」の両面に渡るような取組こそ、当該地域におけるサービスを差別化することにつながるのではないかと。ぜひ積極的に検討していただきたい。具体的なサービスがなかなか見えてこないが、これまで実施した海外富裕層向けのモニターツアーの結果や、増加してきたインバウンド客を受け入れる新たな宿泊施設や地域DMOとの協議を通して、何とか形にしていきたい。
- ・外国人医療交流や外国人がん患者受診数を見てもやや伸び悩んでおり、マーケティングに基づくターゲット設定やその実績が見えないため、将来像が想像しづらいのが率直な感想。
- ・地区全体の魅力を高めるためには、国内、特に近県に目を向けた取組を積み重ね、地道に観光活動の定着・認知度の向上を図っていくことが期待される。このことは紀伊地域の魅力増大についても同様であり、こうした積み重ねがいずれインバウンドにも訴求していくものと考えられる。
- ・外国人対象の医療ニーズは、主として富裕層外国人の高度・先端医療のニーズであり、その対応を特区の主眼としているが、来日外国人及び在住外国人共に増加する中で、それ以外の医療ニーズへの対応が求められるようになってきている。ニーズの多様化と課題への対応に必要な制度上の障壁を整理し、それを乗り越えるための特区での対応について検討が必要と思われる。
- ・観光分野では、コロナ禍後のインバウンド活性化による宿泊需要やアウトレット消費は伸びつつあるものの、地域経済や和歌山県等より広範囲への波及効果を引き出すためには更なる取組が必要と考える。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.5

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(3.8+3.3+3.5 \times 2) / 4 = 3.5$

3.5

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。